

安全性と交通アクセス向上へ

「志賀姥ヶ懐トンネル貫通式」

1月24日、県道岩沼蔵王線の岩沼市と村田町の境である志賀姥ヶ懐トンネル内で、貫通式が行われました。このトンネルは、全長1285メートルあり、道幅の狭い峠道を改良するもので、平成30年度内の開通が予定されています。

式典には、約100人が出席し、菊地市長、佐藤村田町長ら関係者が

◀貫通発破ボタンを押す関係者



貫通発破ボタンを押し、貫通点を通り初めました。

菊地市長は「震災復興の促進と仙南地域はもとより東北全体の活性化に資するものであり、大いに期待している」と話しました。

その後、鏡開きや連会（岩沼市）による太鼓の演奏などで貫通を祝いました。

◀関係者らで、鏡開きを行いました



企業立地協定締結

市は、1月31日に関包スチール㈱（谷本豊治代表取締役社長、本社・大阪市）と臨空西原産業用地の立地協定を締結しました。同社は、既に臨空工業団地に工場を有しており、それに加えて西原地区に新工場を建設することになります。谷本社長は「この日を待ち望んでいた。事業計画を立てて、臨空工業団地で頑張りたい」と話されました。

西原地区は、防災集団移転促進事業により市が買い上げた被災地の利活用策として、産業用地を整備した地区です。今回の協定締結により、西原地区の分譲が完了となる予定です。



▲協定書を持つ谷本社長（右）と菊地市長

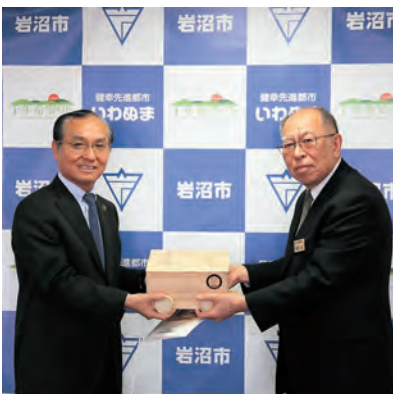
寄贈いただきました

1月18日、(株)畑惣商店（畑文雄社長、本社・仙台市）が市役所を訪れ、「坊っちゃん石鱈」400個を寄贈されました。

また、2月2日、宮城県林業振興協会（佐藤久一郎会長、仙台市）が市役所を訪れ、公立保育所や児童館などに対し「もくもくくんつき」を寄贈されました。



▲畑社長（右）は「小・中学生に使ってほしい」と話されました



▲佐藤会長（右）は「木育に役立ててほしい」と話されました

日常の備えを

～平成29年度防災講演会～

2月4日、市民会館中ホールにおいて、市民約180人が参加し、「平成29年度防災講演会」(演題:いわぬま市民が考える「岩沼防災」～住み良い岩沼を守るために)を、東北大学災害科学国際研究所地震津波リスク評価寄附研究部門プロジェクト講師の保田真理氏(岩沼市在住)を講師に迎えて開催しました。

保田氏から、かつての防災はすべてが「自助」であったこと。地球の歴史からみれば、私たちが暮らす日常の時間は一瞬であり、地球を十分理解できていない中で、自然災害の確定的な予測は困難であること。災害を自分の問題として、常に備えることなど、資料や映像を交えながら、参加者にわかりやすく防災をとりまく状況を解説いただきました。



また、「災害から身を守るために、地域において訓練を重ね、世代を超えて防災に取り組んでほしい」とのご提案をいただきました。

参加者の皆さんは、先生の講演に熱心に耳を傾け、防災・減災の知識などを学ぶ有意義な機会となりました。

新たな農業委員・

農地利用最適化推進委員決まる

農業委員会等に関する法律の改正に伴い、これまでの選挙制から、議会の承認を受けて市長が農業委員を任命することになりました。その最初の任命が、2月19日に行われました。

また、農地利用最適化推進委員の委嘱も新農業委員会会長より行われました。新たな体制のもと、農地の集積集約の業務を中心に、農地利用の最適化を図っていきます。なお、任期は平成33年2月18日までとなります。

農業委員 (敬称略)

会長 佐藤勲(恵み野東)

会長職務代理者 平井博(矢野目申)

菊地幸子(早股下二) 菅原君城(寺島)

吉田俊美(北長谷北) 八巻文彦(早股下二)

伊藤芳一(朝日東) 大友信田(下野郷下)

宮部淳子(朝日東) 木皿清(早股中)

菅井武雄(志賀下) 郡山正志(玉崎上)

猪股政一(三色吉南) 齋新一郎(土ヶ崎第一南)

※農業委員は市内全域を担当します。

農地利用最適化推進委員 (敬称略)

【東部地区担当】

小田原智(早股下二) 川村雄治(矢野目下二)

菅井清光(下野郷下)

【西部地区担当】

大村俊一(三色吉北) 齋明美(たけくま第一西)

【中央地区担当】

佐藤喜一(栄町中央)

東日本大震災 岩沼市追悼式を開催します

東日本大震災で犠牲となられた方々に哀悼の意を表するとともに、震災の記憶を風化させることなく後世に伝え、震災からの復興を誓うため追悼式を行います。

日時/3月11日(日) 14時30分～16時

場所/市民会館 大ホール 追悼方式/無宗教献花方式

※追悼式にはどなたでも参加できます。

※当日、東日本大震災発生時刻の14時46分に合わせ、サイレンを1分間鳴らします。

問/総務課 (☎内線514)

